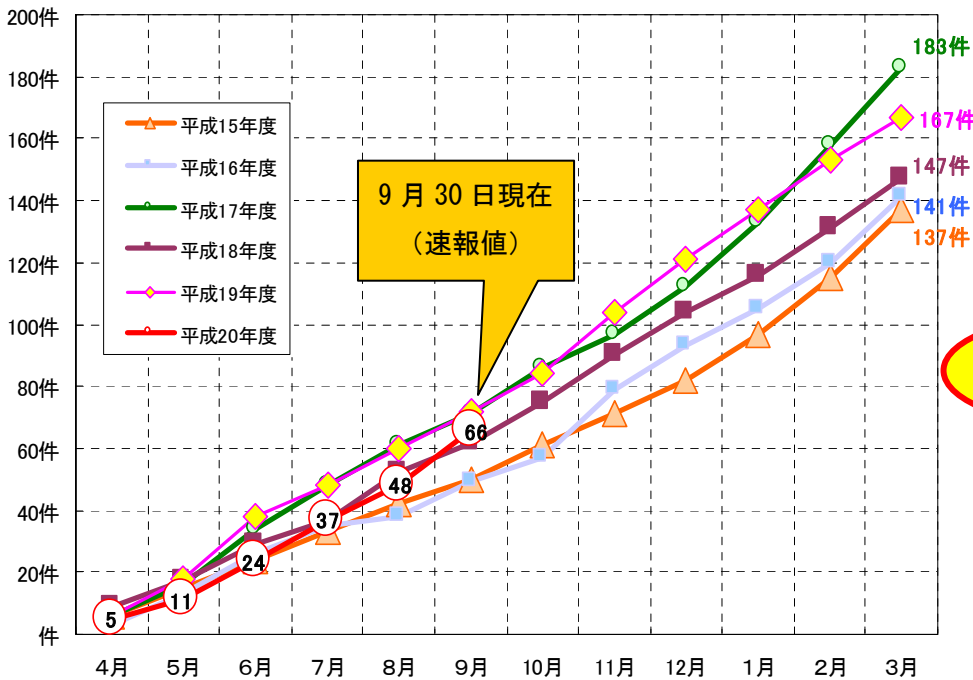


前年度に比べ、13 件減と若干減少傾向

《平成 2 0 年度上半期 直轄請負工事等事故の発生状況》

1. 平成 2 0 年度 事故発生概要

1) 総事故発生件数の経年比較



○平成 2 0 年 9 月 3 0 日現在 (速報値) の事故発生件数は 6 6 件となっており、平成 1 9 年度に比べると若干減少しています。

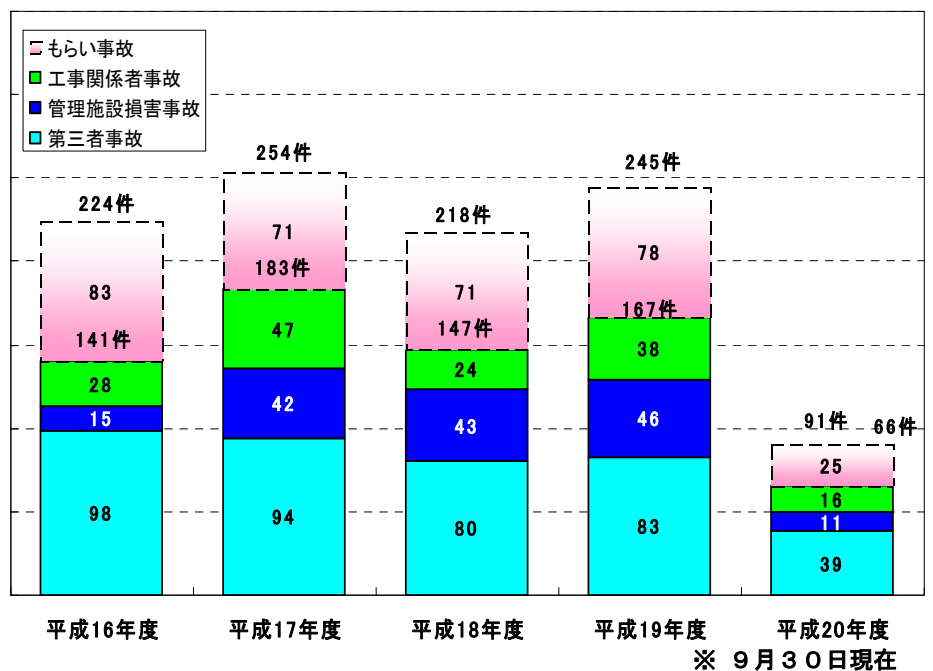
ご安全に!!



2) 事故種類別発生件数の経年

○平成 2 0 年度の事故種類別発生件数は、工事側に過失があり工事関係者が負傷した“工事関係者事故”が 1 6 件 (全体の約 2 4 %) 発生しています。

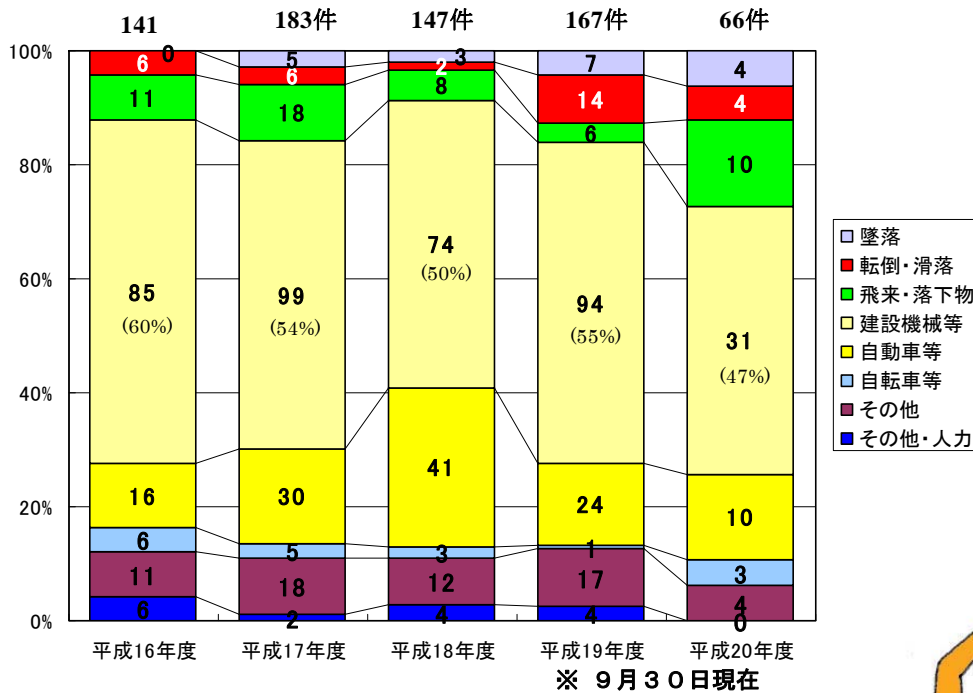
○次に、工事関係者が起因して第三者に損害を与えた“第三者事故”が 3 9 件 (全体の約 5 9 %) 発生しており、また、管理施設に損害を与えた“管理施設損害事故” 1 1 件 (全体の約 1 7 %) 発生しています。



(裏面につづく)

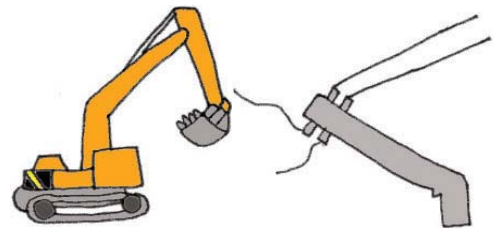
2. 平成20年度までの事故傾向

1) 形態別発生事故件数の経年比較



○平成20年度の事故発生件数（平成20年9月30日時点）は66件です。平成20年度の形態別発生事故に占める建設機械等の発生件数は、31件と平成19年度の55%に比べて8%の減少となっています。

○しかし、建設機械等の事故の占める割合は、経年的にみても大きいことが分かります。



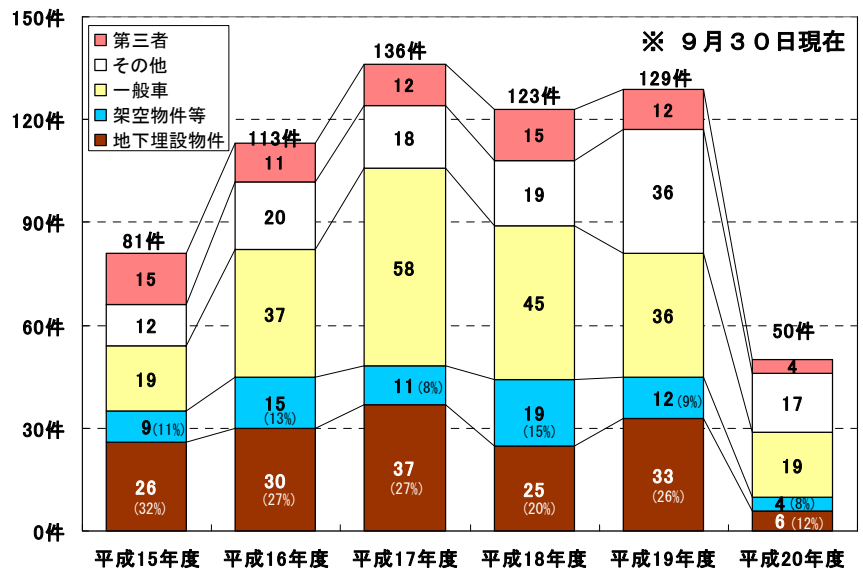
2) 公衆損害事故（物損）の内訳と経年比較

○公衆損害となった“物損事故”で損害を受けた物件別に分類すると以下のようになり、地下埋設物件（情報管路、地下埋設電線、水道管、地下構造物等）が損傷した事故が、平成15年度からおよそ3割程度占めていましたが、平成20年度は1割（12%）程度となっています。

○また、架空物件等（架空電線、信号機、標識等）が損傷した事故は、平成15年度から1割超（平成17年度は1割弱）となっています。

○平成20年度については、

“地下埋設物件が損傷した事故”が減少しており、“架空物件等が損傷した事故”は横ばい状態となっています。また、“草刈り時の飛び石による事故”が、既に昨年度と同数の6件発生しており、今後引き続き注意喚起が必要といえます。



今後もさらなる安全防止対策の強化を!!

過去に発生した事故の教訓を生かし、小さなミスも疎かにせず、より一層の事故防止に努めて下さい。